

病院の面会について

心臓血管外科術前術後の家族面会

心臓血管外科 部長 河田光弘

【背景】

2019年12月 中国内陸部の湖北省武漢で原因不明のウイルス肺炎が報告。

2020年1月に入り中国武漢肺炎の死亡例が報告。

1月14日 WHO新型コロナウイルス感染症と確認。

1月21日 WHOヒトからヒトに感染が見られると報告。

1月26日 新型コロナ肺炎の患者は世界で2000人超えと報告された。

武漢は封鎖され、現地の日本人希望者は全員帰国させる方針。

1月27日 感染が疑われる帰国者は東京都立病院と公社病院へ受け入れると東京都が態勢整備。

1月28日 日本では新型コロナウイルスによる肺炎を「指定感染症」にする事が決定。

1月29日 日本人で初の国内感染が厚労省より報告。

1月30日 東京都が「新型コロナウイルス感染症対策本部」を設置。

2月3日 乗客の感染が確認されたクルーズ船＝ダイヤモンドプリンセス号が横浜港に入港。

2月4日 医療機関でのマスク不足が報道され始めた。

2月6日 ダイヤモンドプリンセス号に自衛隊員を災害派遣した。

2月7日 SNSで警鐘鳴らし処分を受けた中国の医師が感染し死亡と報道。

WHO新型コロナウイルス肺炎は「いまだに激しい大流行のさなかにある」と発表。

この時、日本国内の感染者数は25人。

2月11日 WHO 新型コロナウイルスを「COVID-19」と名付けた。

2月14日 国内で初の死者が報道された。神奈川県日本人女性(80代)。

2月20日 ダイヤモンドプリンセス号から下船し入院中であった日本人乗客2人死亡。

2月22日 COVID-19対応医師ら職場で「バイ菌」扱いされる事に対して、災害時の医療に携わる医師や看護師、救急隊員らでつくる「日本災害医学会」が抗議声明。「悲鳴に近い悲しい報告が寄せられ、同じ医療者として看過できない。強く抗議するとともに改善を求めたい」としたうえで、「偏見や先入観に基づく批判が行われることは決して許されない」と理解を求めた。

2月26日 ウイルス検査能力が限界に達している検査機関もあると厚労相が見解を示した。

2月28日 全国の小中高へ臨時休校要請。新たな感染者で中国以外が初めて中国を上回った。

北海道知事が道民に「緊急事態宣言」。

3月5日 肺炎悪化でECMO使用が全国で少なくとも15人。

日本集中治療医学会や日本救急医学会などが全国約300の医療機関を対象に調査。

3月10日 政府より大規模イベント自粛要請。

3月12日 WHO「新型コロナウイルスはパンデミックと言える」。

3月19日 ドイツで感染者1万人超。欧州などからの入国者2週間の待機要請を決定。

3月22日 新型コロナウイルスの死者が世界で1万人を超えた。

3月23日 WHO ワクチン開発は最短で1年かかると見解。

この時、日本国内の感染者数(累計)1141人、日本国内の死者数(累計)45人。

3月25日 外務省より不要不急の海外渡航を止める様に要請。

3月26日 イタリアで死者7500人超。中国の約2倍となったと報道。

3月26日 新型コロナ感染者が全世界で40万人超。特に欧米で歯止めかからず。

3月27日 専門家「3密」を徹底的に避けるように訴えた。
 3月28日 東京都内でこれまでの最多63人/日の感染確認。
 3月29日 志村けんさん(70)死去。新型コロナウイルスによる肺炎でECMOを使用するも発症から2週間ほどで世界。
 4月6日 東京都医師会「医療的緊急事態宣言」 6週間の外出自粛を呼びかけ
 4月7日 政府より「緊急事態宣言」。東京・神奈川・埼玉・千葉・大阪・兵庫・福岡
 「人の接触 最低7割極力8割削減を!」
 (参照:NHK新型コロナタイムライン<https://www3.nhk.or.jp/news/special/covid19-timeline/>)

【当院入院患者さんの家族面会への取り組み】

世界的に未知のウイルスが忍び寄る恐怖があった。世界的緊急事態。

日々、一日の新規感染者数が増加している事が報道されて、誰もが知っているコメディアンがECMOも使用しても短期間で他界された衝撃のニュース。

その中で病院における家族面会をどの様にして、日常診療を行っていたかを記載する。

2020年3月31日の「面会禁止」お知らせである。時期としてはWHOがパンデミックと宣言し、4月緊急事態宣言が発表された。4月22日からは時間帯制限、出入り口制限が追加された。

令和2年3月31日

面会禁止 のお知らせ

**新型コロナウイルス感染症の流行に伴い
入院患者さんへの感染拡大防止のため、
令和2年3月31日より当面の間、
入院患者さんへの面会を原則禁止させていただきます。**

ただし、以下4つの場合に限り、面会可能といたします。

- 1 医師からの説明がある場合
- 2 病院より呼び出しがあった場合(病状の急な変化が起きた場合)
- 3 入院・退院などの手続きが必要な場合
- 4 着替え・日用品等を患者さんへ届ける場合
(1名かつ短時間(10分程度)でお願いいたします。)

- ▶ 面会を許可された場合、面会受付での検温をお願いいたします。
- ▶ また、病棟に到着されましたら、必ず看護婦にお声かけください。
- ▶ 面会時はマスクを着用し、手洗い・手指消毒をお願いします。なお、当院ではマスクをお渡しできません。事前にご用意ください。
- ▶ 小学生以下のお子様の同伴はご遠慮ください。

また、面会可能となった場合でも、以下の方は面会をお控えください。
 熱のある方/強いだるさのある方/咳が出る方/2週間以内に海外に旅行された方/2週間以内に海外から来られた方

ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします
 地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター センター長

令和2年4月22日

面会禁止 のお知らせ

**新型コロナウイルス感染症の流行に伴い
入院患者さんへの感染拡大防止のため、
入院患者さんへの面会を原則禁止させていただきます。**

ただし、例外的に以下の方は面会を可能といたします。
 面会許可となる場合は、右の写真のとおり、
 休日・時間外出入口からお入りください。

- 1 医師からの説明がある場合
- 2 病院より呼び出しがあった場合(病状の急な変化など)
- 3 入院・退院などの手続きが必要な場合
- 4 着替え・日用品等を患者さんへ届ける場合 (数分で1名のみ)
- 5 面会許可証を持っている場合(1名のみ)
※4及び5の面会は14:00~18:00に限定します。

- ▶ 面会を許可された場合、休日・時間外出入口での検温にご協力をお願いいたします。
- ▶ また、病棟に到着されましたら、必ず看護婦にお声かけください。
- ▶ 面会時はマスクを着用し、手洗い・手指消毒をお願いします。
- ▶ なお、当院ではマスクをお渡しできません。事前にご用意ください。
- ▶ 小学生以下のお子様の同伴はご遠慮ください。

また、面会可能となった場合でも、以下の方は面会をお控えください。
 「発熱のような症状」、「37.5℃以上の発熱がある方」、「強いだるさや息苦しさがある方」

ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします
 地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター センター長

この時、実際には不要不急の外出も自粛、「人の接触 最低7割極力8割削減を!」と政府より宣言され、病院の面会も極力制限された。新型コロナウイルスPCR検査はようやく外注で出来る様になったが、結果が出るまで2~3日の時間が必要であった。

不要不急の検査、定時手術も控える様に医療機関全体に知らせが来た。

同時に、当院は急性大動脈スーパーネットワーク支援病院であるため、その受け入れは極力行っていく、また新型コロナウイルス重症肺炎に対するECMO治療を行う方針となった。この時期は、他の救命救急医療機関で急性大動脈スーパーネットワーク重点病院、積極的にECMOを行う病院であっても急に受け入れが不可能になる事態が想定され、その状況では当院が緊急症例に対して

救命に貢献できるのではないかと病院全体で考えたからである。

N95マスクが枯渇し、当時7日間は同じN95マスクを使用する状況であった。



ICUでの新型コロナウイルス重症肺炎の患者さんの挿管

2020年6月 内科医の中から「面会禁止の状態に入院患者さん、そのご家族にかなりのストレスになっている。」「急性期病院に入院する患者さんたちであるから、危篤な状況を脱した以降も、生死について、ご家族は不安を持っている」「面会できないことに対して威圧的に怒鳴って苦情を言うご家族がしばしばおられる」「面会の方法としてタブレットなどITの活用を！」ここからリモート面会が検討され始めた。

2020年12月 外科医より「緊急手術は順調に終了し術後経過は良いが、精神的に気分が落ち込み、術後の抑うつ状態も見受けられ、家族に会いたいと訴えている。患者さんの病状を良くするのに家族の力も大きい。重症患者、術後患者のご家族と医療者との信頼関係が無い状態では、医療不信につながってしまう。新型コロナ感染症も、第1波、第2波、第3波と経験してきて、PCR検査もやり易く結果も早く出る様になったので、面会するご家族にPCR検査を行って陰性確認してからの面会を認めて欲しい。」

院内で十分検討の結果2021年1月12日から面会希望ご家族に自費で当センターのPCR検査(研究所PCR)を受けていただき、陰性確認後に条件はあるが面会可能となった。

患者の状態でどうしても面会をさせる必要があると判断した場合の対応について

12月1日より、新型コロナウイルス陽性者の著しい増加に伴い面会を全面禁止としたところですが、患者の精神的な状態から面会を許可して生きる活力を持たせたいなど、強い必要性を感じた場合に一定の条件のもと面会を許可します。(令和3年1月12日以降)

現在の許可範囲：終末期の最終段階、病状説明・荷物の不足による病院からの呼び出し

全面面会禁止は変更しないが、患者の状況で主治医がどうしても面会が必要と判断した場合、一定の条件のもと面会を可能とする(原則1名、最大でも2名まで)。

一定の条件を求める理由

- 1 面会する家族も陽性である可能性がある
- 2 家族が陽性だった場合の対策として面会15分以内、室内でもマスクを外さないことを確実に守れる家族かどうかの判断が必要である
- 3 暴言や苦情など、病院のルールを守らない家族とのトラブルを避ける必要がある
- 4 安易に許可した場合に病院内のクラスター発生リスクが高まるため、ハードルを上げ管理体制を確実しておく必要がある

【面会を可能とする条件】令和3年1月12日以降、全ての面会時間を13時～17時(退館)とする

条件	注意
病院の指示に従う面会者かどうか、やむを得ない必要があるかどうか、主治医が責任を持って判断する	診療録に必ず記載を残す
面会を行う家族が自費で当センターのPCR検査(研究所PCR)を受けること(センターのカルテがない場合は事前に作成)	金額は非公表の上5000円とする 証明書は発行しない
PCR検査は、主治医がオーダー(入院前・検査前予約枠を使用)、主治医が本人への結果の直接の連絡と記載を行い来院時間を調整する	面会3日前までの検査で陰性の場合許可する 繰り返し面会させる場合の検査頻度は2週間に一度自費
面会者の来院時間については、主治医が忘れずに病棟看護師長に伝え、病棟看護師長は防災センターに連絡する	
面会許可時間「13～17時退館」以外の時間に許可する場合は、面会者来院時、防災センターから主治医へ連絡し主治医が付き添う	主治医への連絡がつかない、主治医が付き添わない場合は無効
面会者来院時、病棟入り口で ①面会管理簿記入、②ストップウォッチを15分後にセットし渡す ③腕章に退室時間を記入、 <u>時間厳守でステーションに返却を求める</u>	面会時間を守らなかったり指示に従わなかった場合は、それより先一切の面会を禁止する旨記載した用紙を渡す

家族のカルテ作成に関する問い合わせ先

医事課業務係

面会方法の統一

COVID-19 感染症流行に伴う面会禁止の中で面会を許可する条件

COVID-19 感染症流行に伴い、当院では全面的に面会を禁止している。
しかし、手術患者、急変時の対応、ターミナルステージにある患者等、主治医が面会を必要と判断した場合は、以下の条件を満たしたとき許可する。
※オンラインによる面会(予約制)を優先選択肢としたうえで判断する。

面会を可能とする条件

- ① 人数：1名(2名以上必要な場合はセンター長の許可を得る)
- ② PCR陰性確認：当院で実施する。通常唾液検査(実費5000円)
緊急時は呼吸器PCR(実費13,500円)
陽性者は面会不可。
- ③ PCRの有効期限：3日前の結果まで有効。
(繰り返し面会が必要な場合は、再検査を繰り返す)
- ④ 面会は平日(月～金)13:00～17:00(オンラインは14:00～15:30)
- ⑤ 面会時間：5分以内
- ⑥ サージカルマスク or 不織布マスクの着用：持参していない場合は購入してもらう。
- ⑦ 健康観察表：予定入院患者さん入院前10日間の健康観察表を記録し持参する。※
- ⑧ 主治医の立ち会い：面会を許可した主治医が立ち会う。
- ⑨ 連絡と説明：主治医が行う。(検査結果確認後、検査実施者へ連絡し結果説明する。)
- ⑩ 記録：主治医が診療録に記録する。

※ 緊急時、健康観察表の記入がない等、真にやむを得ない場合にはそれ以外の条件を満たしたうえで許可する。

【主治医が行うこと】

1. 患者家族PCR検査該当者に関する連絡(病棟、患者名、家族の氏名・生年月日・連絡先)
【連絡先：医療サービス推進課医事業務係入院担当：1125・1129】
注)IDある・なしに関わらず、必ず連絡する。
2. 該当患者家族の検査オーダー

【PCR検査での陰性が確認されていない場合】

『陰性』確認がされていない家族は、病室内に入室を許可しない。
『急変時の対応時』や『死亡確認時』にも同様である。

※ 2月15日(月)より適用する。

2021年2月15日からは、リモート面会も含めた面会のルールが決められた。これにより緊急手術の際の家族面会、新型コロナウイルス重症肺炎に対するECMO治療患者さんのご家族のICU入室しガラス窓越しの面会などが可能となり、他の医療機関では完全に面会禁止となっている事が報道されている状況下で、患者さん、ご家族からは、短時間であっても実際に面会出来る事は

大変喜ばれた。

また医療者側としても面会後の患者さんの精神面が改善する事も実感できた。

2021年6月24日からは抗原検査(ウェルサイン)によるPCR検査より短時間の検査で、面会者の陰性チェックが妥当であることが院内で認められ、運用が変わって行き、医療者にかかる負担も軽減した。

令和3年6月24日

新型コロナウイルス感染症対策本部会議

「面会者用」 新型コロナウイルス抗原検査 の流れ

別紙、「面会許可の条件」でいう新型コロナウイルス抗原検査(保険診療外)の運用を以下のように定めます。

実施する場所：病棟面談室

実施手順：

- (1) 本人がキットに氏名を記載する
- (2) 検体を採取し、手順に沿って溶液をキットに垂らす
- (3) 15分後 W チェックのうえ判定し、入院患者のカルテに結果を記録する
カルテ記載例：〇〇：〇〇 面会者△△□□氏(続柄)、ウェルサイン抗原検査を実施(鼻腔 or 咽頭)看護師〇〇と W チェックで陰性を確認し、10分間面会した。
※ラインが微妙な場合その旨を記録に残す。
例：〇〇：〇〇 面会者△△□□氏、ウェルサイン抗原検査を実施(鼻腔 or 咽頭)看護師〇〇と W チェックで確認、判定不能のため本日は面会をお断りした。
- (4) 判定に使用したキットは、ビニール袋に入れて看護師が感染性廃棄物に廃棄する
- (5) 抗原検査実施者名簿(面会用)を記載し看護部に提出する(毎週火曜日) *別紙

注意点 (1) コントロールラインが出なかった時

検体の採り直しをして、新しいキットで再検査を進めてください。

(2) 判定ラインの線が出ているのか出ていないのか、微妙な時

面会はできない旨を伝えてください。

PCR 検査を希望する場合は、救急外来を受診するよう説明してください。

(3) 陽性のラインが出たとき

感染対策の確認をするので、感染管理担当か小金丸医師に連絡をください。

検査キットは、当面の間、看護部に請求してください。

この「入院患者の面会者への感染対策、どうする?」という事については、日経メディカル 2021年7月8日の記事になっている。

<https://medical.nikkeibp.co.jp/leaf/mem/pub/report/t260/202107/571029.html>



2021年7月1日
クラスター抑制を目的とする共同実証研究記者発表

これ以降、抗原検査を活用して、面会者のスクリーニングを行い、陰性確認してからご家族の面会をしていただいた。

中には症状が無いが抗原検査で陽性と判明し、その後PCRも検査し、陽性が確認されたご家族は、当然面会は出来ないが、自分自身が新型コロナウイルス感染症であることが分かり、以後自宅待機するなど、その方からの感染拡大を防ぐことが出来たエピソードもあった。現在2023年12月までにすべての面会者の記録、抗原検査の陰性確認、陽性の場合には面会中止になった記録を残しており、幸い面会患者さんから入院患者さんへの感染や、医療従事者への感染は認めていない。

コロナ禍で緊急入院し、開心術を受けて頂いた患者さんからの感謝の手紙を要約したものを提示する。

その下は、コロナ禍に定時手術を受けて頂いたご高齢女性のご家族からのお手紙、急性A型大動脈解離で緊急手術を受けて頂いた重症患者さんのご家族からのお手紙の実物を提示した。

コロナ禍において感染性心内膜炎にて開心術を受けた患者さんより当院への感謝

30代 女性 大学職員、夫が大学教授

診断：感染性心内膜炎

既往歴：20代からうつ病、過換気症候群

病歴：2020年秋～微熱あり。体調不良。なかなかPCR検査は受けさせてもらえなかった。その2か月後かかりつけ歯科医にて歯石除去。37～38℃の発熱。その1か月後高熱、嘔吐、下痢あるも高熱があることで医療機関受診が制限され、内服抗生剤を3日分処方された。なかなか解熱せず、受診可能な感染症内科を検索し、当院初診。精査続け心エコーで僧帽弁に疣贅認め、緊急入院。採取していた血液培養3セットから、Streptococcus sanguinis(口腔内連鎖球菌)が検出された。頭部MRIで小さな塞栓性梗塞巣も認めた。ABPC+GMを4week以上投与した後に僧帽弁形成術+左心耳閉鎖術施行。術後経過良好で術後13日目に軽快退院。退院後も体調不良なく外来通院中。

●感謝

- ①なかなかコロナ禍で他で対応してもらえなかったが、当院で受け入れてもらえ、確定診断してもらえた。
- ②半年に及ぶ闘病、51日間の当院入院治療、開心術 ⇒入院してコロナ対応しながらの医療現場の過酷さを知りました。
- ③医療機関は原則面会禁止の環境下で
面会禁止の悪影響として、社会との断絶、身内との断絶、精神疾患の増悪、せん妄出現、認知機能の低下など
当院では、面会者のPCR検査を行ってもらい、健康観察調査もして、この環境下でも夫に面会させてもらえて非常にありがたかった。初めての開心術を受けるのに支えになった。
- ④医療者が新型コロナになってしまったら通常医療が回らなくなってしまう事を入院生活を体験して感じた。
- ⑤医療者への風評被害も起こり得ることを感じた。それに耐えて仕事していることに感謝。

●この経験をもとに、自分が勤務している大学で

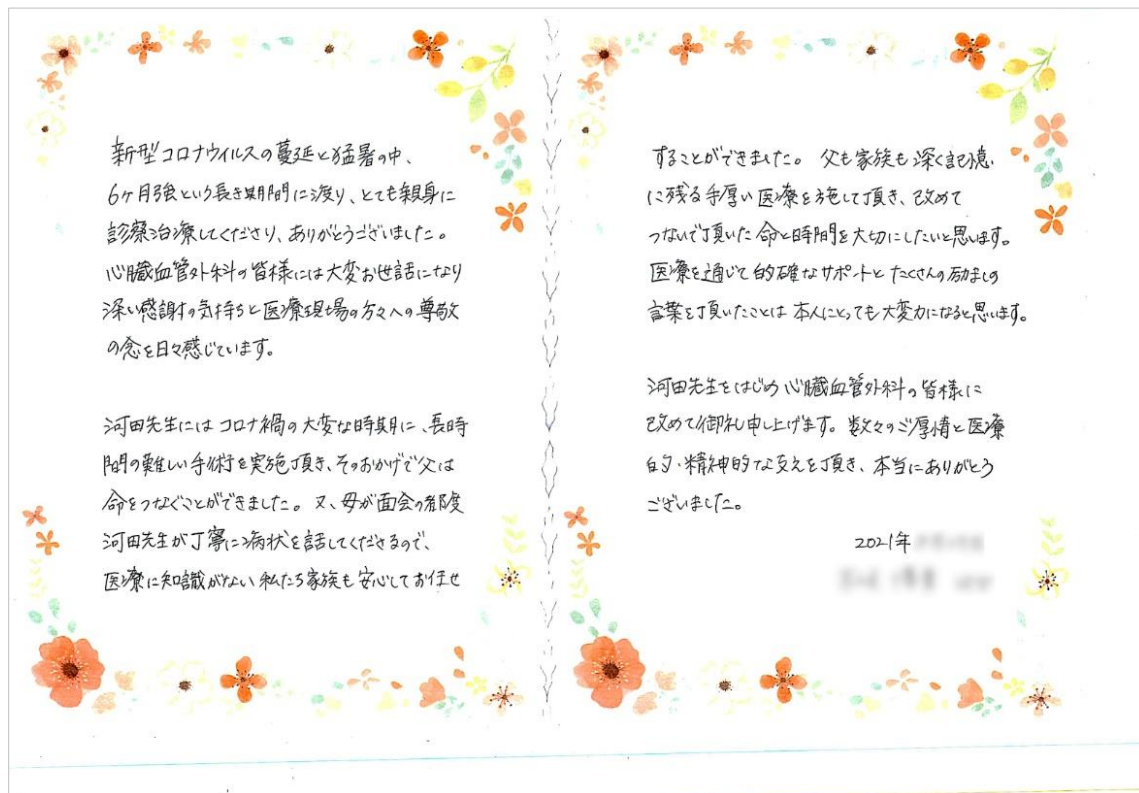
『疫病と人類の闘い-先人が培った英知を新型コロナウイルス蔓延防止に活かす』と題して講義をした。学生に感染防止を促す内容と医療従事者の献身的な仕事内容を伝えた。その結果、110名の学生から医療従事者への感謝・応援メッセージ、自分たちの行動で感染拡大にならない様にしたいとのメッセージが寄せられたので、外来受診時に持参した。

2021.

河田 光弘 先生.

此の度、母の入院に際しまして、大変お世話になりました。ありがとうございます。
親身の治療のおかげで、思いのほか、早い退院となり、母も機やかに立ち歩き始めました。心より御礼申し上げます。又、PCR検査や面会付き添いなどご多忙の中、感謝申し上げます。ありがとうございます。

定時手術を受けて頂いたご高齢女性のご家族から



急性A型大動脈解離で緊急手術を受けて頂いた重症患者さんのご家族から

2023年5月8日に新型コロナウイルス感染症は感染症法の位置付けが「5類」になった。

コロナワクチンも最大7回接種した人もいる状況となったが、医療機関としては院内感染、クラスターを起こさない努力を日々続けている



コロナ禍真ただ中の期間:院内で患者さん同士将棋をさしている風景

病院全体の患者面会延べ人数(1週間当たり) 2021年1月1日～2022年12月31日

患者面会週間延べ人数

